あかりの物語❶

和ろうそく（わろうそく）

和ろうそくは、「灯心」とよばれる芯にハゼの木の実からとりだした蝋をぬり固めてつくります。火を灯心に近づけると蝋が溶けて、灯心に蝋が染みます。蝋が染みこむことで火が灯ります。

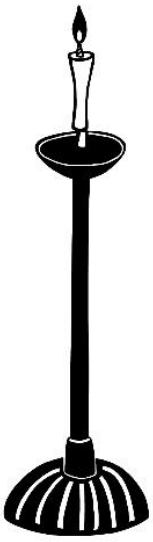
火が蝋を溶かす→蝋が灯心に染みこむ→灯心の先で燃える
これを繰り返して蝋がなくなるまで燃え続けることができます。

[あかりの豆知識]ハゼってどんな植物？

ウルシ科の植物で、初夏にクリーム色の花が咲き、その後実をつけます。樹液にふれると肌がかぶれることがあります。日本に伝来したのは古くは安土桃山時代であるとされる説もありますが、江戸時代頃から和ろうそくや髪をととのえるための油などに利用されるようになりました。また、アク抜きして焼いたりすり潰したりして餅にして非常食にする地域もあったようです。

手燭（てしょく）

燭台と同じ、ろうそくを立てて使う照明具。夜に足もとを照らすことができるように、持ち運び用の持ち手がついている。



燭台（しょくだい）

ろうそくを立てて家の中を照らす、置き型の照明具。木や陶器、金属などで作られたものもある。